

私たちの療育方針と療育目標

親なき後の子ども達が、自分らしく働き、暮らし、地域と共に生きる幸せな人生を送ることを目指します

令和6年4月策定
施設長 川端晴奈

	未就学期 2～5歳	小学部 7～12歳	中学部 13～18歳	高等部
か か わ る 力	家族との関わりを楽しむ	友達や先生との関わりを楽しむ	地域との関わりに関心を持つ	
	自分の気持ちに気づき、言葉などで表現する		相手の気持ちに関心をもち、互いに伝えあう	
	1対1の活動に参加する	小集団の活動に参加する	協力・協働しながら活動に参加する	
生 活 す る 力	支援を受けて生活動作ができる	わずかな支援で生活動作ができる	自力で生活動作ができる	
	支援を受けて移動・買い物等ができる	わずかな支援で移動・買い物等ができる	自力で移動・買い物等ができる	
	プライベートゾーンを知る	自分のプライベートゾーンを守る意識をもつ	自分と相手のプライベートゾーンを守ることができる	
は た ら く 力	言語や数の概念の基礎を育む	支援を受けて読み・書き・計算ができる	わずかな支援や自力で読み・書き・計算ができる	
	支援を受けて基本的生活習慣の行動ができる	わずかな支援で基本的生活習慣の行動ができる	基本的生活習慣が身に着いている	
	相手からのあいさつに返事をする事ができる	家族や友達、先生に基本的なあいさつをすることができる	相手や場面に応じて適切なあいさつをすることができる	

親なき後も自分らしく働き、暮らし、地域と共に生きる幸せな人生



プログラム内容と実践項目

令和6年4月策定
施設長 川端晴奈

子ども達に生まれながら備わっている生きる力を、全面的かつ調和的に育てるための「5領域」を実践し、「かかわる力」「生活する力」「はたらく力」の育成と向上を目指します

①健康・生活

健康状態の維持・改善、生活習慣の形成、基本的生活スキルの獲得の支援

②運動・感覚

運動能力や感覚統合の支援

③認知・行動

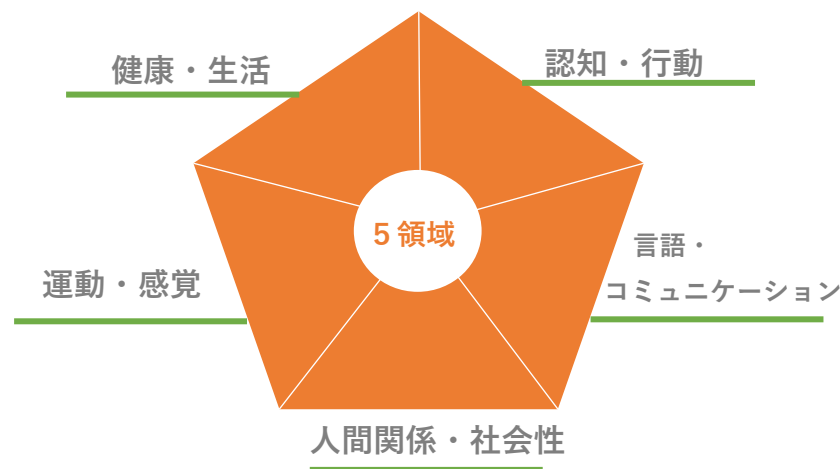
認知機能の向上や適切な行動の獲得の支援

④言語・コミュニケーション

言語能力の向上やコミュニケーションスキルの支援

⑤人間関係・社会性

他者との関りの中での社会性の発達と集団活動や社会参加の支援



《実際の療育プログラムの例》

	健康・生活	運動・感覚	認知・行動	言語・コミュニケーション	人間関係・社会性
かかわる力	健康状態を伝えよう	引っ張り合いや 対戦スポーツをしよう	自分の気持ちに気づいたり 相手の気持ちを想像しよう	自分の気持ちを伝えよう フワフワ言葉をつかおう	小集団の活動をしよう 協力・協働しよう
生活する力	はみがきや洗顔の 練習をしよう	様々な触感や食感に触れ、 慣れよう	信号を視て、 安全に横断しよう	身の回りにある物の 名前を当てっこしよう	(性教育) 互いのプライ ベートゾーンを守ろう
はたらく力	体温や血圧を測り、 記録しよう	農作業や軽作業に必要な 動きの練習をしよう	「一緒に働きたい」と思わ れるのは、どんな人？	「報・連・相」の 練習をしよう	「調理」「接客」に分かれて、 カフェ営業をしよう